

2019年11月20日(水)

老球の細道511号

ミニバス優勝大会地区予選スタート

会津バスケットボール協会 室井 富仁

近年ミニバスケットボールのレベルが向上しているように感じるのは私だけだろうか。JBA がマンツーマンディフェンスの縛りを設けてから、ディフェンスのスキル向上のみならず、1:1 オフェンス能力の向上も著しい。先月喜多方で観戦したゲームで新潟の小学4年生のスキルには度肝を抜かれた。ドリブルワーク、ユーロステップ、3P シュート相当のロングシュートの確率とフォームのなめらかさは尋常ではなかった。世界は広い、いるところにはいるものである。

先週の土曜日からミニバスケットのメイン大会である「優勝大会」会津地区予選がスタートした。私は開会式で挨拶を依頼されたので、日頃思うところを大勢の参加者の前で話をさせてもらった。

まず最初に整列している選手の数をみてびっくりした。高校チーム、部員数が減少しているが、ミニの世界はまだまだバスケットボール人口は減少していないようである。ミニの関係者に言わせれば、これでも最近では減少傾向にあるという。それにしても、これだけの子供たちが高校まで続けてくれれば、もう少し会津地区のレベルは向上すると思うのだが。ミニから高校、一般までの各カテゴリーの連携を地区全体で取り組む必要があるだろう。

開会式での話は「準備なくして成功、勝利なし」の話をさせてもらった。米国カレッジバスケットボールの天才コーチ、ボビー・ナイトの有名な箴言である。その後「準備しないことは、成功しないことを準備することである」と続く。

私はその言葉に関連させて「大会中の準備」について話をした。多くのチームが大会までは一様に準備してくるのだが、準備してきたことを本番の大会で発揮できないということが多い。それは相手チームや心身のコンディションなどによって、ゲームでは予想外のことがたくさん起こりえるからである。だから、大会中も入念な準備が必要になってくる。相手チームに対する戦略、戦術、ゲーム中の作戦、メンバーチェンジ、タイムアウト、試合前の練習、試合後の会場での過ごし方、そして家に帰ってからの体調管理など盛りだくさん。

チーム、選手の実力には調子の波があり、幅がある。最近の災害ではないが、ゲームも想定外のことが起こる。最高の状態でゲームをするためにも大会中の準備は念には念を入れなければならない。

最後に、JBA のパフォーマンスコーチ佐藤晃一氏(郡山高校出身)はワールドカップに出場した日本代表選手たちに「小、中学校の頃に戻れるとしたら何をやっておけばよかったか?」と聞くと、答えは、だいたいフィジカルについてが多いと『月刊バスケットボール』で語っていた。篠山竜青選手はレスリング、柔道など他のスポーツにも取り組んでおけば良かったと……。この話もしたかったが忘れてしまった。